

2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画（平成 17 年度）と各種プロジェクトとの対応一覧表

凡 例

(1) この対応表は、独立行政法人文化財研究所（奈良文化財研究所を含む）の平成 17 年度年度計画と予算化された各種プロジェクトとの対応関係をあらわしたものである。

(2) 各種プロジェクトのなかで、東京文化財研究所に関わるものは、対応する区画に掲載し、成果報告から逆引き参照の便をはかるため、各区画に Area 番号を付した。

(3) プロジェクトには、下記にしたがって、分類項目と担当部門の記号を併記し、あわせて予算項目にしたがって背番号（二桁）を付した。

分類項目	担当部門
プロジェクト研究	情：協力調整官 情報調整室
国際協力・交流等	美：美術部
資料作成・公開	芸：芸能部
研究集会・講座等	保：保存科学部
研究指導・研修等	修：修復技術部
刊行物	セ：国際文化財保存修復協力センター
	管：管理部
	共：共通

例 画像形成技術の開発に関する研究（情 01）

協力調整官 情報調整室が担当するプロジェクトで、このプロジェクト研究の掲載頁に研究成果が報告されていることをしめしたもの。

ただし、科学研究費・受託研究等の研究調査は、研究および業務の性格上、この対応表には掲載していない。

(4) 背番号のないプロジェクトは、日常業務のなかで実施、または他のプロジェクトの一環として総合的に実施しているもので、適宜、必要な場合に注記を付した。

独立行政法人文化財研究所の年度計画（平成 17 年度）

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成 13 年 4 月 2 日付け 13 庁財第 15 号で認可を受けた独立行政法人文化財研究所中期計画に基づき、平成 17 年度の業務運営に関する計画（年度計画）を次のとおり定める。

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、運営費交付金を充当して行う業務の効率化を進め、次の措置を講ずることにより業務の効率化を図る。

- 1 国際協力、国際共同研究の「国際文化財保存修復協力センター」への一元化による業務の効率化のため、東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センターと奈良文化財研究所埋蔵文化財センター国際遺跡研究室の業務について連絡調整を行い、国際協力事業等を効率的に実施する体制の構築を図る。
- 2 両文化財研究所の共通業務の効率化のため、総務部及び各研究所に共通する事務の効率的な運用を行う。
- 3 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進を目的として、環境物品等の調達を推進するとともに、再生紙の利用、古紙リサイクル、所内 LAN を活用した回覧文書等のペーパーレス化を推進する。

- 4 セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用を推進するため、セミナー室、講堂等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施する。
- 5 連絡システムの構築等による事務の効率化を推進するため、インターネット、所内 LAN、会計システムネットワーク、文書管理システム等を活用する。
- 6 業務の外部委託、事務の OA 化の推進等による効率的な事務の執行を推進するため、同じ会計システムを使用している他の独立行政法人と共同でプログラム修正を図り、事務の効率化を進めるとともに、複数法人で発注することにより、経費の節減を図る。
- 7 自己点検評価を適切に実施するとともに、法人運営の改善に反映させる。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 文化財に関する調査研究

次に掲げる調査・研究及びそれに関連する国際交流・協力等を計画的に進めるとともに、外部機関との共同研究を実施する。

また、客員研究員の積極的な活用等により、調査・研究の推進を図る。

(1) 文化財に関する基礎的な調査研究を推進するため、以下の研究課題に取り組む。

我が国及び諸外国の美術及び美術史、演劇、音楽、民俗芸能に関する調査・研究を実施する。

Area1

ア 東アジア地域における美術交流の歴史や日本美術に及ぼした影響について解明するため、重要美術作品資料集成に関する報告書を毎年度刊行することを目指して研究・執筆を行い、また、日本における外来美術の受容に関する報告書を平成 17 年度に刊行することを目指し資料の分析・研究を行う。

さらに、近世輸出工芸品に関する報告書及び中国壁画の研究に関する報告書を平成 17 年度に刊行することを目指し、それぞれの研究に関する資料の収集や分析・研究を行う。

イ 我が国の近代美術の発達に関して、時代を追って調査研究を進めるとともに黒田清輝に関する調査研究を進めるため、平成 17 年度に『昭和前期美術展覧会出品目録』（仮称）を刊行することを目指して昭和前期を中心とする日本近代美術の発達に関する調査研究を行う。さらに平成 17 年度の報告書の刊行を目指して現代美術資料の調査研究及び黒田清輝の再評価に関する調査研究のため、資料収集や分析研究を行う。

東アジア地域における美術交流の研究 重要美術作品資料集成に関する研究（美 03）

東アジア地域における美術交流の研究 日本における外来美術の受容に関する調査・研究（美 01）

近世輸出工芸品に関する調査研究（修 05）で包括的に実施

東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究（美 02）

我が国の近代美術の発達に関する調査・研究 日本近代美術の発達に関する調査・研究 昭和前期を中心に（美 05）

我が国の近代美術の発達に関する調査・研究 現代美術資料の調査・研究 資料収集・整理法の確立のための研究（美 07）

我が国の近代美術の発達に関する調査・研究 黒田清輝に関する再評価のための調査・研究 大正期美術との関連を中心に（美 06）

ウ 伝統芸能に関する調査及び外国との比較研究に関し平成17年度に報告書を刊行する。歌舞伎・文楽の上演稀少演目の上演実態等について、実演者・裏方への聞き取りを含めた調査及び研究を行う。また、三番叟を中心とした能・狂言の特殊技法に関する調査研究を行う。さらに、アジアを中心として伝統芸能の国際比較研究の準備を行う。

エ 伝統楽器の変遷に関する調査研究を行う。平成17年度は雅楽の管楽器や能楽の鼓胴、一節切を中心に調査の総括を行い、報告書を刊行する。

オ 民俗芸能の上演目的や上演場所の歴史的変遷について考察し、平成17年度に報告書を刊行する。平成17年度は、近代以降の社会変化に伴って上演目的や上演形態が変化したと考えられる民俗芸能に対して過去行った現地調査の補足調査を実施する。また、本来の上演場所以外の公開についての調査として、芸能大会等での公開について、資料収集・現地調査を実施する。

近代歌舞伎資料の調査と目録化
歌舞伎・文楽の裏方資料の所在調査
能の特殊上演に関する調査研究
無形文化財記録作成事業
アジア芸能との比較研究
1 いずれも（芸01）として総合的に実施

博物館・社寺の所蔵楽器調査
楽器の変遷研究
2 いずれも（芸03）として総合的に実施

社会変化にともなって上演目的や上演形態が変化したと考えられる民俗芸能の調査研究
本来の上演場所以外での公開についての調査
3 いずれも（芸02）として総合的に実施

- 1 伝統芸能の特殊な上演に関する調査研究（芸01）
- 2 日本伝統楽器の変遷研究（芸03）
- 3 民俗芸能の上演目的や上演場所の調査研究（芸02）

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。

ア 平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡について、古代都城の実体解明のため本年度は以下の地区の発掘調査を実施する。

（平城宮跡）第一次大極殿地区、第二次朝堂院地区

（藤原宮跡）宮朝堂院跡

また、測量法の改正（測地成果2000：平成14年4月施行）に伴う諸作業を完成させる。

イ 上記アの発掘調査と比較研究を行うため、これと密接な関係を有する平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡以外の遺跡について、本年度は以下の地区の発掘調査を実施する。

（平城宮跡地区）興福寺大乗院

（飛鳥・藤原宮跡地区）石神遺跡

ウ 上記発掘調査による出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成17年度及び平成17年度以前の発掘により出土した出土遺物（木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等）の分類、分析研究及び保存処理を実施し、また、同発掘の出土遺構図面の作成など基礎的研究と景観の考察など修景に関する研究、遺構・遺物の写真資料の復原と保存に関する研究を行う。そして平城宮出土硯集成、平城京木簡3を刊行する。このほか全国出土文字資料の情報収集・研究及び藤原京域と条坊に関する復原的研究（高所寺池）の報告書を刊行する。

エ 古代建築、伝統建築、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データの蓄積と分析・研究を行うとともに、平成13年度から行ってきた文化財建造物の保存及び修復のための指標となる報告書を刊行する。

オ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿復原に関して、専門的・技術的な援助・助言を行うため、今年度も第一次大極殿復原設計計画に沿った実践的研究及び第一次大極殿正殿の復原施工段階における実践的研究を行う。

カ 平成 13 年度から行ってきた日本の古代庭園に関する調査研究をとりまとめ、報告書を刊行する。
発掘庭園データベース（和文・英文）については、最新データを追加し、奈良文化財研究所のデータベースとして公開する。また、庭園考古学研究を実施している海外の研究機関との研究交流を行い、国際的な庭園考古学（発掘庭園）ネットワークの構築を図る。また、その成果の一部として『ANCIENT ROMAN VILLA GARDENS』の日本語訳版と庭園用語集を作成する。

キ 飛鳥地域の歴史の解明を目指すとともに、その研究成果を飛鳥資料館での展示により有効活用する方法を検討するため、アジア史の中の飛鳥文化の研究及び飛鳥時代の工芸技術の研究をそれぞれ実施する。

日本の歴史、文化の源流の実態を探るため、継続的に行ってきた南都諸大寺等が所蔵する歴史資料・書跡資料等に関する調査は、今年度も興福寺、東大寺、薬師寺等の所蔵資料の原本調査、記録作成を行うとともに、その調査研究成果とデータベースの取りまとめを行う。

南都諸大寺及び周辺古社寺における文化財の特質解明の一環として行ってきた、唐招提寺の歴史的環境に関する調査研究については、これまでの研究をとりまとめて、報告書を刊行する。

(2) 文化財に関する基礎的研究を推進し、それを基礎にして文化財の保存・活用の充実に図るために必要な基礎資料の収集と分析及び文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する実践的な調査・研究を実施する。

文化財の調査・研究方法の開発等に関する調査研究を進め、文化財を生み出した文化的・歴史的背景を明らかにするため以下のとおり実施する。

ア 各種の官衙・官衙関連遺跡、及び官衙関係遺物の調査研究法の向上を図るため、それらの特徴や調査研究の現状について研究し、官衙造営技術を明らかにする発掘調査方法と資料分析法を研究開発する。また、鳥取県上原遺跡群と関連遺跡の遺物調査をふまえた郡衙と周辺寺院の性格分析についての研究成果をまとめる。

イ 年輪から遺跡出土木材、建築部材、木彫仏等の年代測定および自然災害に関連した埋没樹幹の年代測定を実施する。また、ハイレベルでの年輪年代測定法の開発研究に関しては、平成 16 年度に引き続き自動年輪計測機器の問題点を整理し、改良していくための調査研究を行う。また、年輪年代学と考古学の年代推定に関する研究、年輪年代学と建築・美術・自然災害に関する研究をそれぞれ実施し、報告書を作成する。

ウ 動植物遺存体の出土品を全国から収集し、整理・分析を行い、動植物遺存体による環境考古学研究に関する報告書を刊行する。平成 16 年度に引き続き骨角器の製作技法の研究を実施し、加工痕から工具を推定する方法の確立を目指し調査研究を行う。

科学的手法を用いた新たな保存修復技術・方法の開発に関する調査研究を以下のとおり実施する。

Area3

ア 文化財の彩色材料に関する非破壊測定法の実用化のための基礎研究として、平成 17 年度に報告書を刊行することを目指し、画像形成技術の開発に関する調査研究、美術工芸品の彩色に関する光学的調査研究、非破壊調査法に関する調査研究を実施する。

イ 臭化メチル燻蒸代替法及び殺菌・防カビ法の開発のため、平成 17 年度に最終報告書を刊行することを目指し調査・研究を実施する。

画像形成技術の開発に関する研究（情 01）
光学的手法による美術工芸品の彩色に関する研究（美 09）
非破壊調査法に関する調査研究（保 01）

臭化メチル燻蒸代替法に関する研究
（保 02）

Area4

ウ 文化財施設の保存環境に関する状況調査や分析研究及び周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究を行い、その報告書を平成 17 年度に刊行することを旨とする。

文化財施設の保存環境の研究（保 03）
周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（修 03）

エ 大型木製品、有機質遺物、無機質遺物の保存処理法及び調査法を開発するため、大型木製品の劣化と保存処理に関する調査研究、有機質遺物の材質分析と保存処理に関する調査研究及び無機質遺物の非破壊構造調査のデジタル化と応用研究を実施し、これまでの総括をおこなう。

Area5

オ 古糊やフノリなどの伝統的な修復材料の素材に関する物性の解明及び文化財修復の新たな素材と技法並びにレーザーによる文化財クリーニング法について平成 17 年度を目的に開発・研究を行う。

伝統的修復材料に関する研究（修 06）
レーザーによる文化財クリーニング法の開発研究（修 07）

カ 古代遺跡の保存科学的研究のため資料の収集、分析・研究等を実施し、データベース化を図る。

Area6

キ 近代の文化遺産の保存修復に関する報告書を平成 17 年度に刊行することを旨とし、これらに関する資料の収集、分析・研究等を実施する。

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（修 01）

文化財の活用手法に関する調査・研究を以下のとおり実施する。

ア 平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行う。その一環として、文化庁の行う平城宮跡第一次大極殿院地区の復原整備計画に沿った学術的調査研究を実施する。

イ 平成 13 年度から行ってきた全国の大規模遺跡の整備及び管理、活用状況に関する調査研究については、今年度は残る四国・九州地区の対象遺跡の調査を行うとともに、5 カ年の調査をとりまとめる。

ウ 出土遺構及び遺物の公開活用に資するため、遺跡の公開のための新たな保存法として、遺跡の露出展示法を開発するための調査・研究を実施し、これまでの総括をおこなう。

(3) 文化財に係る調査・研究に関する国際交流・協力等を推進する。

次に掲げる文化財の調査・保存・修復に関する国際機関及び諸外国との研究協力・国際共同研究・情報交換・専門家養成等の支援を行う。

Area7

ア 諸外国の文化財の保護制度に関する調査・研究として、オランダの文化財保護制度と保存活用に関する調査を実施し、平成 16 年度に実施したイタリアでの調査研究についての報告書を刊行する。

文化財保存に関する国際情報の収集及び研究（ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と活用事例）（セ 05）

イ 文化財を取り巻く自然環境とレンガ等材料の劣化原因に関する共同研究として、日韓共同による石造文化財に対する環境に起因する劣化とその対策について第 3 期目の調査研究を実施するとともに、平成 17 年度の報告書の刊行を旨とし、タイの遺跡における劣化現象及び保存対策に関する共同研究並びに東南アジア諸国の屋外文化財の劣化と保存に関する調査を実施する。

日韓共同研究（修 03）の一環として実施文化財の保存修復に関する国際共同研究
[第 1 期] 東南アジア諸国の屋外文化財の現地環境と劣化状況調査ならびに保存対策に関する調査研究（セ 03）
文化財の保存を目的としたレンガの劣化現象と保存対策に関する調査・研究（セ 02）

ウ 中国、中南米諸国等との文化財の保存修復に関する調査・研究、技術移転並びに人材育成を目的として、敦煌莫高窟保存に関する現地調査及び研修生の受け入れを実施し、龍門石窟の文化財の保存に関する第1期5年度の現地調査及び研修生の受け入れを実施し、陝西省唐代陵墓石彫像の保護修理事業を4年計画の第2年度として実施する。パナマの歴史地区に関する保存修復協力事業を5年計画の第5年度として実施する。

エ 過去の被害調査を行って地理情報システムによる文化財の台風被害データベースを作成するとともに、平成17年度に応急処理指針等の提案に向けて必要となる基礎情報を収集するために現地調査等を行うとともに、報告書にまとめる。

オ 在外日本古美術品修復についての諸外国博物館等との協力事業及び研究機関・専門家との学术交流について8件の事業を行う。

敦煌莫高窟壁画の保存修復研究 日中共同研究 (修02)

中国文化財保存修復に関する調査・研究(龍門石窟の保存修復に関する調査研究)(セ04)

中国陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する研究(セ30)

中南米諸国文化財保存協力事業 第1期
パナマの歴史地区の保存修復協力事業 (セ01)

文化財の防災計画に関する研究(修13)

在外日本古美術品保存修復協力事業
(修05)

文化財保護に関する日独学术交流(保04)
北米の文化財保存研究機関との国際研究交流(保05)

カ アンコールワット遺跡群西トップ寺院において発掘調査を行うとともに、関連する保存科学的・測量的調査研究を行う。また、チリ・イースター島・モアイ石像の保存に関する共同研究として、暴露試験片の分析をおこない、これまでの総括をおこなう。

キ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、古代庭園及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、漢長安城桂宮の発掘調査成果の検討、唐長安城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同発掘調査、中国の生産遺跡(唐三彩窯跡及び産品)に関する中国河南省文物考古研究所との共同研究、三燕文化に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、韓国の生産遺跡に関する韓国国立文化財研究所との共同研究、藤原京・平城京並びに百済・新羅王城の形成と発展過程に関する比較調査・研究、東アジア陶磁器の比較研究を実施する。

本年度は、中国の生産遺跡(唐三彩窯跡及び産品)に関する中国河南省文物考古研究所との共同研究及び三燕文化に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究に関する報告書を刊行する。

文化財保存修復に関する国際研修等を次のとおり実施する。

ア 文化財保存修復研究国際センター(ICCROM)との国際修復研修事業の共同開催

イ 文化財の保存・修復に関する国際研究集会の実施

国際研修 漆の保存と修復(修14)

第29回文化財の保存・修復に関する国際研究集会(セ35)

Area9

- ウ アジア文化財保存セミナーの実施
- エ 国際文化財保存修復研究会の実施

アジア文化財保存セミナーの実施(セ06)
 国際文化財保存修復研究会の実施(セ11)

- オ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター文化遺産保護協力事務所等の研修事業への協力

Area10

文化財保存修復に関する指導・助言・協力のため、諸外国へ職員を派遣し国際研究交流を実施する。

国内においても文化財の保存科学等の分野において、各種研究機関、民間企業等と共同で調査・研究を行う。

外部機関等からの求めに応じて、文化財の保存・修復に関する実践的研究を実施する。西アジア諸国等の文化財修復に関して、情報収集及び関係機関等との連絡調整、事前調査を行い、協力事業を実施する。平成16年度に引き続き、主にアフガニスタンとイラクの文化財保存修復協力事業を行う。

その他の研究活動を参照

受託調査研究・外部資金による研究及び外部機関との共同研究の報告を参照

西アジア諸国文化遺産保存修復協力事業(セ33)

2 調査研究に基づく資料の作成・公表

次のとおり調査・研究に基づく資料を作成するとともに、定期的な刊行物の発行、講演会・シンポジウム・研究集会の開催等により調査研究成果を積極的に公表し、国民が容易に研究成果を入手できるよう努める。

- ア 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行

Area11

定期刊行物

- 『美術研究』(年3冊)
- 『日本美術年鑑』(年1冊)
- 『芸能の科学』(年1冊)
- 『保存科学』(年1冊)

年報

- 『東京文化財研究所年報』
- 『奈良文化財研究所紀要』

『美術研究』(美14)
 『日本美術年鑑』(美10)
 『芸能の科学』 芸能部出版関係事業(芸11)として実施
 『保存科学』(保09)

『東京文化財研究所年報』 広報企画事業(情03)として実施

Area12

研究報告書、研究論文等

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書

発掘調査報告書

『未来につなぐ人類の技5 大型建造物の保存と修復』(修01)で包括的に実施
 『Conservation of Railways II』(修01)で包括的に実施

文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書	第 28 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書『The 28th International Symposium on Conservation and Restoration of Cultural Property, Non-destructive Examination of Cultural Objects Recent Advances in X-ray Analysis 』（保 20）
第 13 回アジア文化財保存セミナー報告書	第 13 回アジア文化財保存セミナー報告書（セ 06）で包括的に実施
国際文化財保存修復研究会報告書（2 冊）	国際文化財保存修復研究会報告書（セ 11）で包括的に実施
民俗芸能研究協議会報告書	『民俗芸能研究協議会報告書』 芸能部出版関係事業（芸 11）として実施
在外日本古美術修復協力事業報告書	『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 17 年度（絵画／工芸品）』（修 05）で包括的に実施
蔵書目録	『東京文化財研究所蔵書目録 6（上） 展覧会カタログ 目録編』『東京文化財研究所蔵書目録 6（下） 展覧会カタログ 索引編』（情 05）
奈良国立博物館所蔵仏画調査報告書（仮称）	『国宝 絹本著色十一面観音像』（情 01）で包括的に実施
国立故宮博物院（台湾）懷素自叙帖調査報告書（仮称）	『懷素自叙帖検測報告』（情 01 で包括的に実施）

研究論集・奈文研史料等
飛鳥資料館図録

第 34 回文化財保存修復研究協議会報告書

国際研修会「漆の保存と修復」

イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査
研究報告書

『文化財の調査研究および保護に対する地理情報システムの利用』（セ 34）
国際研修「漆の保存と修復」報告書（修 14）で包括的に実施

イタリアにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書（セ 05）で包括的に実施

『重要美術作品資料集成に関する研究』
 (美 03) で包括的に実施

『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』 (美 01) で包括的に実施

『近世輸出工芸品の調査研究 II』 (修 05) で包括的に実施

『「東アジア地域における美術交流の研究 中国壁画の研究」報告書 壁画・建築彩色データ集』 (美 02) で包括的に実施

『昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇』
 (美 05) で包括的に実施

『柳澤孝仏教絵画史論集』 (美 09) で包括的に実施

『日韓共同研究報告書 2005 「石造文化財の劣化と周辺環境」』 (修 03) で包括的に実施

『伝統的修復材料に関する調査研究 IV』
 (修 06) で包括的に実施

『レーザーによる文化財クリーニングに関する報告書』 (修 07) で包括的に実施

『敦煌莫高窟壁画保存修復に関する日中共同研究 2005』 (修 02) で包括的に実施

『文化財の防災計画に関する研究 第 1 回研究会 文化財防災への道』 (修 13) で包括的に実施

『Proceedings of the 14th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage Living with Cultural Heritage, Asia, perspectives at changing period: Theories and outline』 (セ 06) で包括的に実施

『藤間清寄贈図書目録』 (情 05) で包括的に実施

『第 35 回文化財保存修復研究協議会 伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向～』 (修 16) で包括的に実施

ニュース

埋蔵文化財ニュース
 東文研ニュース
 奈文研ニュース

『東文研ニュース』 広報企画事業(情 03)
 として実施

『東京文化財研究所概要』 広報企画事業
 (情 03) で包括的に実施

- イ 公開学術講座、講演会、発掘現地説明会の開催
 公開講演会（年4回）（飛鳥資料館特別展に伴う講演会（年2回）を含む）
 発掘調査結果の現地説明会（年6回）

Area16

公開学術講座
 夏期学術講座

美術部オープンレクチャー（美13）
 芸能部公開学術講座（芸06）
 芸能部夏期学術講座（芸06）

- ウ データベースの充実と順次公開
 データベースの充実及び公開
 木簡データベース
 遺跡データベース
 古代地方官衙・居宅・寺院関係遺跡データベース
 発掘庭園データベース（和文・英文）
 薬師寺典籍文書データベース
 図書データベース
 報告書抄録データベース
 軒瓦データベース
 全文データベース
 写真データベース
 墨書土器集成図録データベース

Area17

- 美術関係図書データベース（外部公開）
 売立目録データベース（外部公開）
 近現代美術展覧会情報データベース（外部公開）
 黒田清輝仮想ギャラリーデータベース（外部公開）
 伝統芸能関係図書データベース（外部公開）
 保存修復関係図書データベース（外部公開）
 近現代美術展覧会カタログデータベース（外部公開）
 古典芸能関係雑誌所載文献データベース（外部公開）
 定期刊行物所載古美術文献データベース（内部公開）
 定期刊行物所載近現代美術文献データベース（内部公開）
 古美術展覧会カタログデータベース（内部公開）
 所蔵画像データベース（内部公開）
 墨跡関係画像データベース（内部公開）
 『東洋美術文献目録』・『日本東洋古美術文献目録』掲載文献目録データベース（内部公開）

ホームページ及びデータベースの作成・管理（情08）として実施

- エ 黒田記念館、飛鳥資料館、平城宮跡資料館、飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室における展示公開の充実

Area18

黒田清輝記念館における作品の展示公開
 常設展（毎週木曜日、土曜日午後開館 無料公開）
 地方巡回展（年1回）
 所蔵作品の貸与（3件）
 年間目標入館者数 3,500人

黒田記念館における作品の展示公開 常設展（美20）
 黒田記念館における作品の展示公開 地方巡回展・所蔵作品の貸与（美21）

飛鳥資料館における展示公開
常設展（月曜日、年末年始休館 有料公開）
特別展（年2回）
企画展（年2回）
展示品の貸与
展示品の貸与
年間目標入館者数 94,000人

平城宮跡資料館における展示公開
常設展（月曜日、年末年始休館 無料公開）
発掘速報展（年1回）
展示品の貸与
年間目標入館者数 75,500人

飛鳥藤原宮跡発掘調査部展示室における展示公開
常設展（土日祝日、年末年始休館 無料公開）
展示品の貸与
年間目標入館者数 3,500人

オ 研究成果の公表に関するアンケート調査等の実施

文化財に関する協議会、研究集会等の開催

Area19

- ア 民俗芸能研究協議会
- イ 文化財保存修復研究協議会
- ウ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究会

- エ 保存科学研究集会

- オ 在外日本古美術品調査報告会
- カ 古代官衙・集落に関する研究集会
- キ 古代瓦に関する研究集会

民俗芸能研究協議会（芸13）
文化財保存修復研究協議会（修16）
近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（修01）で包括的に実施

在外日本古美術品保存修復協力事業
（修05）で包括的に実施

3 文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供

Area20

文化財に関する情報・資料の収集・整理・提供

ア 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実を図るための方策を検討し、前年度実績を越える目標を設定して、その実施に努める。

資料閲覧室運営（情04）
国際資料室の整備・公開・活用（セ14）
ホームページ及びデータベースの作成・管理（情08）として実施
伝統芸能の画像・音声・映像資料のデジタル化（芸07）
東京文化財研究所 70年史編纂事業（情10）

イ 文化財関係データベースを継続的に作成し充実するとともに順次公開する。

文化財保存に関する国際情報の収集及び研究 データベースの作成・公開（セ13）

Area21

文化財情報の電子化及びシステムの構築に関する研究成果を活用した文化財情報基地としての基盤整備並びにホームページの充実

システム管理（情02）として実施
ホームページ及びデータベースの作成・管理（情08）として実施
画像資料の収集・整理（情06）として実施
写真機材・設備（情07）として実施

4 文化財に関する研修等

文化財に関する研修

ア 埋蔵文化財発掘技術者研修

一般課程、専門課程、特別課程を計14回実施、研修人数のべ200人

イ 博物館・美術館等の保存担当学芸員研修

期間2週間、受講生25名程度

Area22

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（保06）

連携大学院教育の推進等

ア 東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進

東京芸術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）

京都大学：人間・環境学

奈良女子大学：人間文化学

Area23

連携大学院教育（共）

イ 博物館学実習

期間1週間 実習生10名（東京）

期間1週間 実習生10名（奈良）

Area24

博物館学実習（美15）

5 文化財の調査・保存・修復・整備・活用に関する援助・助言

文化庁の実施する平城宮跡及び藤原宮跡の整備復原事業関係

ア 平城宮跡第一次大極殿院正殿復原事業に関する技術的助言

イ その他平城宮跡、藤原宮跡等の整備事業に関する技術的助言

ウ 特別史跡キトラ古墳及び国宝高松塚古墳壁画の調査及び保存・活用に関する技術的助言

地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業関係

ア 史跡の整備・復原事業等に関する技術的援助・助言

Area25

イ 文化財の保護に関する調査・助言

ウ 文化財の材質構造に関する調査・助言

エ 文化財の保存修復及び整備に関する調査・助言

オ 無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言

文化財の材質に関する調査と援助・助言（保）として実施
文化財の修復及び整備に関する調査・助言（修）として実施
無形の文化財の保存・伝承・活用等に関する調査・助言（芸）

カ 文化庁が実施する発掘調査マニュアル作成事業に関する援助・助言

地方公共団体等が設置する文化財の収蔵・公開施設に対する専門的・技術的な援助・助言

- ア 博物館・美術館等館内の環境調査
- イ 文化財の虫害等に対する調査

博物館・美術館等の環境調査と援助・助言
 (保13)
 文化財の虫菌害に対する調査指導(保)
 として実施

6 前各項の業務に附帯する業務

- (1) 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・積極的支援及び文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力
 - 平城宮跡等公開活用支援事業の実施
 - 東院庭園の公開と維持管理
 - 遺構展示館の公開及び付属駐車場の警備
 - 朱雀門の公開
 - 宮跡内トイレの清掃
 - 宮跡内の巡視及び美化管理
 - 文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力
- (2) 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等への来訪者に対するサービスの充実
 - 平城宮跡解説ボランティア事業の運営
 - ボランティア登録者 約100名、年間約3万人を対象に解説事業を実施
 - 各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援
 - ミュージアムショップの運営委託
 - 飛鳥資料館等のミュージアムショップを委託により運営

平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡、飛鳥資料館等への来訪者に対する満足度の調査

予算(人件費の見積もりを含む。) 収支計画及び資金計画

- (1) 予算(平成17年度予算) 別紙のとおり(p.22 参照)
- (2) 収支計画 別紙のとおり(p.23 参照)
- (3) 資金計画 別紙のとおり(p.23 参照)

短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、6億円。

短期借入が想定される理由は、運営費交付金の受け入れに遅延が生じた場合である。

重要な財産の処分等に関する計画

重要な財産を譲渡、処分する計画はない。

剰余金の使途

決算において剰余金が生じた場合は、調査・研究、出版事業及び国民に対するサービスの向上に必要な展示施設・設備の整備等に充てる。

その他主務省令で定める業務運営に関する事項

- 1 人事に関する計画
 - (1) 方針
 - 職員の適正な配置と計画的な人事交流の実施

職務能率の維持・増進

ア 福利厚生充実

イ 職員の能力開発等の推進

(2) 人員に係る指標

常勤職員については、その職員数の抑制を図る。

(参考1)

年度初の常勤職員数 126人

年度末の常勤職員数の見込み 126人

(参考2) 今年度中の人件費総額

今年度中の人件費総額見込み 1,113百万円

ただし上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

2 施設・設備に関する計画

施設・整備の内容	予定額(単位:百万円)	財源
奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部 第二収蔵庫増設工事	474	還付消費税
奈良文化財研究所飛鳥資料館 資料館増改築工事	75	還付消費税

予算(人件費の見積りを含む。) 収支計画及び資金計画資料

(1) 予算(平成17年度予算) (単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	3,046
展示事業等収入	21
受託収入等	26
計	3,093
支 出	
運営事業費	3,067
人件費	1,256
物件費	1,811
うち一般管理費	468
うち調査研究事業費	612
うち情報公開事業費	173
うち研修事業費	23
うち国際研究協力事業費	327
うち展示出版事業費	140
うち平城宮跡等公開活用支援事業費	68
受託事業費	26
計	3,093

【人件費の見積り】

今年度中 1,130 百万円を支出する。

ただし上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

【備考】

- 1 上記予算の他、平成13年度における消費税の還付金を財源として、施設整備費549百万円の支出を予定している。
(- 2 参照)
- 2 上記予算の他、独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けた目的積立金のうち、未執行額15百万円があり、調査・研究、出版事業及び国民に対するサービスの向上に必要な展示施設・設備の整備等に充てる予定である。

(2) 収支計画(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	3,298
経常経費	3,067
人件費	1,256
物件費	1,811
うち一般管理費	468
うち調査研究事業費	612
うち情報公開事業費	173
うち研修事業費	23
うち国際研究協力事業費	327
うち展示出版事業費	140
うち平城宮跡等公開活用支援事業費	68
受託事業費	26
減価償却費	205
収益の部	3,298
運営費交付金収益	3,046
展示事業等の収入	21
受託収入等	26
資産見返運営費交付金戻入	52
資産見返物品受贈額戻入	153

(3) 資金計画(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	3,093
業務活動による支出	3,093
投資活動による支出	0
資金収入	3,093
業務活動による収入	3,093
運営費交付金による収入	3,046
展示事業等による収入	21
受託収入	26
投資活動による収入	0